

誰もが安心
して暮らせ
る町づくり
をめざして

名北福祉会 広報誌

2020 1 Jan No.50

みんなの夢

2020年1月1日発行（年3回）

発行所／社会福祉法人 名北福祉会

発行人／黒川 富子

〒462-0807 名古屋市北区御成通 3-20-4 TEL:052-910-3066 FAX:912-5188 HP:<http://meihoku-fukushi.org/>



デイサービス町南



めいほく町南の家



デイサービス東町

あけましておめでとうございます

理事長 黒川 富子

皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、名北福祉会の運営に温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、保育部と障がい部は、全国集会在愛知で開催され貴重な経験を得ることができました。

「みなみ町福祉総合センター」実現にむけ、特養建設公募に応募しましたが、実現することができず継続課題となりました。第二めいほく保育園は、春までに大改修を行います。また、「障害者グループホーム町北」は、三月に完成し、新たな利用者を迎えます。

今、政府が進めている「全世代型社会保障」の本質は、「自助・互助」による社会保障への転換です。それに対し、憲法にもとづく権利としての社会福祉の実現にむけ、全国組織「権利を守る社会福祉法人経営全国会議」が四月に発足し動きだします。

平和で豊かな住みよい街づくりをすすめる、福祉の充実をめざしと、りくんでいきます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。



第51回

全国保育団体 合同研究集会

学んだ、がんばった 愛知合研

in愛知

つながろう
豊かな保育・子育てのために
ひろげよう
平和へのながい

2019年
8月3日 SAT
4日 SUN
5日 MON

3日・5日
全体会 (保育・子育てフォーラム、記念講演)
会場 愛知県名古屋市 ポートメッセなごや
4日
保育・子育てに関する講座
分科会、シンポジウム
会場 ポートメッセなごや、金城学院大学
名古屋市立大学・桜山(川邊)キャンパス

つながれ笑顔のど真ん中！わくわくあいち合研

第二めいほく保育園 武藤 恵利子

第51回全国保育団体合同研究集会には、全国から7074名、愛知からは3530名が集いました。

「施設訪問からみえてきた

地域の現状」

北区、東区、守山区のちようど名北福祉会の保育園がすっぽり入る地域実行委員会、愛称「ドームらへん」で活動してきました。公立保育園の職員組合とともに、各区の保育園、幼稚園、児童デイ、図書館、保健所など子どもにかかわる施設を訪問し、合研が愛知で開催されること、そして、合研が

ブロック企画
わらべうたあそび
山川先生を招いて



ら誕生した雑誌「ちいさいなかま」を紹介しながら、わらべうたの山川先生、表現あそびのただじゅん

さんの学習会があることを伝えま

した。学習会当日は、民間園の職

員さんが参加してくださったり、

保護者の参加もあり、合研の魅力

を伝えることができました。この

施設訪問は緊張があり、相手の方

の反応に不安もありつつ取り組み

ました。たくさんの小規模園の数

に戸惑い、団地の中で見つけるこ

とができなかったり、お家で工夫

して保育を行っている所があった

り、「学びたい、知りたい」とい

う声を直接聞くことができ、地域

の現状を知る機会となりました。

「ともに作り上げる喜びを

エネルギーに」

実行委員として、またいろんな企画の担当や当日要員など何らかの形で参加して力を合わせて作り上げる側を経験し、参加するだけの合研とは違う魅力を感じることができました。

ともに作り上げる喜びをエネルギーに、そして来年からの合研の参加も、今までは少し違った視点で積極的に学べる予感です。

「実践を振り返り学んだ実践提案」

やだ保育園 目加田・石原・種田

「保育の振り返りで得たもの」

私たちは昨年度のまとめから「子どもの思いによりそう0歳児保育」の実践提案をしました。合研に実践提案をするにあたって



改めて担任間で昨年度の保育を振り返り、昨年のまとめだけでは新しい新たな視点で話し合うことができませんでした。当日は、3つの園の実践提案、質疑応答グループ討議の流れで進行していききました。

をすることにあって、改めて自身の保育を振り返ることが出来たり、職員間でその時の子どもの姿とそこから成長した現在の子ども達の姿について話し合ったりと、いいきっかけを頂いたように思いました。当日も実践提案を通して全国の保育士の方とお話ができ、とても沢山のことを学べる時間となりました。(目加田)

「全国の保育士と話せた貴重な時間」

私は保育士一年目で初めての保育が0歳児の担任でした。何も分らない状態でのスタートで、目の前の子ども達一人ひとりと合わせてどう保育をしていくか探りながらの毎日だったと感じます。しかし、今回の実践提案



「かけがえのない財産になった愛知合研」

なえしろ保育園 保母 柊子

「実践提案を通して」

合研で、4歳児の実践を提案させていただきました。4歳児期にファンタジーの世界で遊ぶということの面白さや奥深さを様々な視点から深められ、なるほど……と私自身の捉え方や視野が広がったように感じました。



オープニング企画 合唱「ぞうれっしゃ」

と身体の中からこみ上げてくる熱い思いを感じました。『ぞうれっしゃ』という、愛知だからこそその平和への願いを、毎日一緒に今を生きている子どもたちと共に、全国の大勢の仲間たちの中を練り歩いて発信するということに、その場で参加しながら胸が震える思いでいっぱいでした。

分科会は、あたたかい雰囲気の中で、様々な意見を聞いたり、全国各地のそれぞれの園での実践を交流することができ、とても貴重な学びになりました。

「こみあげる熱い思いを感じて」

また、一日目のオープニング企画に、5歳児の子どもたちと一緒に参加させていただき、合研の熱気と雰囲気を感じ、ぐわっ

身の収穫にできたことは、私のかけがえのない財産になったと感じています。この経験を、今後の自分の経験にも存分に活かしていきたいと思っています。

『暑かった。熱かった。あいち合研！』

めいほく保育園 岩村 まり

「自らすすんで実行委員に」

毎年暑い夏の最中に行われる保育園合同研究会が、今年は12年ぶりに愛知で行われました。前回のあいち合研のときは自分が学ぶことで精一杯で、実行委員や要員で頑張る人たちを横目で見ながら、「大変だなあ」なんて思っていました。

「ブロック長となって」

しかし、今思えばそのときはみんなが敷いてくれたレールに乗っかっていただけ：今回、北・守山・東区のブロック長となり、会議の日程を決めてみんなに連絡して会議を進めて：というのはとても大変で、周りの実行委員の方におんぶにだっこでなんとかやってきました。ブロック会議の他に、全体の常任会議、組織部会議にも出席し、そこで聞いた他の仲間の頑張りを「すごいなあ」と思えばかりで、それをブロックのみんなに伝

「地域の訪問から見えてきたこと」

えきれなかったのですが、ブロック内ではそれなりにみんなが盛り上げてくれて、3回の企画を行いました。1回目は市職とあいち共連の職員で交流会、2回目はただじゅんさんを招いて、保護者の方や子どもたちも一緒に身体を使って触れ合い遊びをしたり、職員向けに遊びの講座を開いてもらったりしました。3回目の山川裕子先生を招いてのわらべうた学習会ではブロック内の小規模施設の職員も参加してくれて、合研の参加につながりました。

地域の施設へも何度も訪問し、合研へお誘いするのはもちろん、どんなところに施設があるのか？どんな保育をしているのか？ということもつかんできました。公立保育園の民営化や企業主導型の施設、コンビ二併設型の施設も開かれようとしている今、地域の特徴を把握し、どの子も等しく保育が受けられることや職員が生き生きと働き続けられることの大切さを実感しています。

地域の保育の質を上げられると

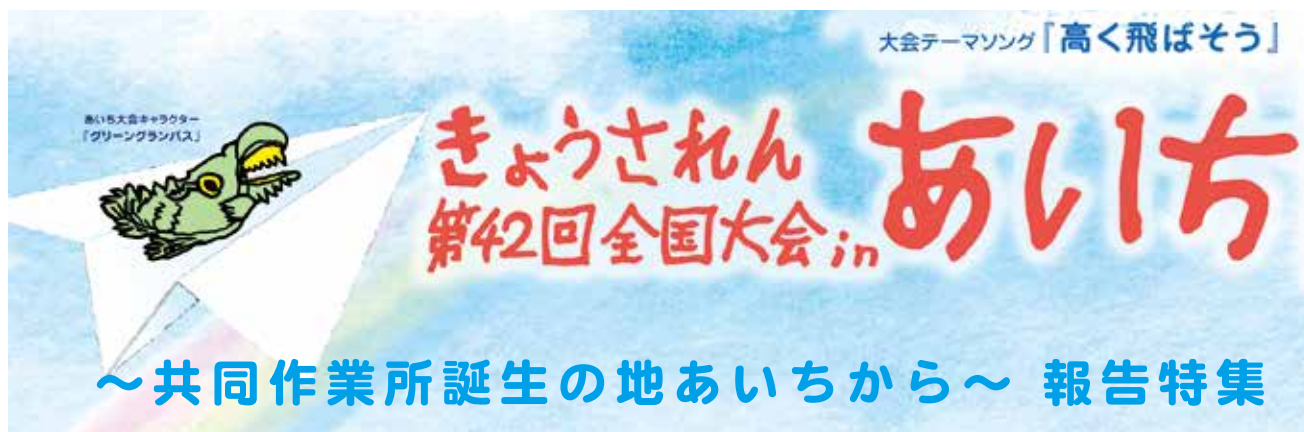
いいなという大きな目標を持ちつつ、今後もつながっていけるといいなと思います。



ブロック企画 表現あそび
ただじゅんさんを招いて



ブロック企画 「がんばるぞー」



きょうされん全国大会とは…毎年、全国にある障害者関連施設が参加する全国規模の交流会です。

今年度2019年は愛知県で10/25・10/26の2日間名古屋国際会議場で開催されました。全国から2日間で約4000名の方の参加がありました。名北福祉会からも仲間、職員、ご家族などたくさんの方がキャスト側、ゲスト側として参加しました。

今大会の事務局長で活躍した、めいほく共同作業所の塚本さんに話をききました。

「きょうされん」を広く知らせることができた大会

きょうされん（共同作業所やグループホーム等障害福祉事業所の全国団体）の全国大会は、【交流体】としてのきょうされん最大の催しであり、一方で【運動体】としての側面もあります。【交流体】というのは全国から障害当事者、家族、職員が集い、活動や実践の成果、直面する課題を持ち寄り学び、交流することです。今大会もボランティアを含め4000人が名古屋の地に集まりました。【運動体】としての成果は今大会を多

くの自治体や団体、個人に知らせ、きょうされんの目指すものや障害のある仲間たちのことを広く知ってもらう大きな機会になったことです。大会事務局長の役割として両面の目標をもって大会実行委員会、事務局の運営を行いました。

共同作業所づくり
50年特別企画合唱構成
『高く飛ばそう』
の様子





事務局長の塚本さんを
中心にしたチーフキャストの人
たちの打ち合わせ風景

一年半の準備期間を経て

実行委員会結成は大会一年半前の2018年5月にさかのぼります。実行委員会にはきょうさん関係者のみならず、各種障害団体や協力団体が幅広く参加しました。そして障害のある仲間たちが仲間実行委員会を結成し、中心的な役割を果たし力強く大会運営を進めました。

共同作業所のあゆみを学ぶ

大会準備にあたり、今大会を愛知で開催する意義を話し合いました。そのなかでは、日本最初の共同作業所が名古屋の地で生まれて今年で50年の節目であること、一方で年金と工賃を合わせても年収200万円以下の方が90%以上暮らしの場の不足による家族依存の課題など障害のある人を取り巻くいまだ厳しい状況が出し合われました。今大会を通して、共同作業所のあゆみを学び、そしてきょうさんの「スローガンである『当たり前前に働き、選べる暮らし』に

一歩でも二歩でも近づこうと、みんなで力を合わせて取り組みました。

みんなの力が大会成功へ

3000人規模の大会を開催することは企画の検討や参加者を集めること、ボランティア要請、運営資金作り、後援要請など様々な課題がありました。大会成功の裏には、毎週のように会議を開いたり、後援・協賛やボランティア協力をお願いしたり、一つの自治体や、団体を訪問して作業所で働く仲間たちのことを丁寧に伝えた地道な活動がありました。また人不足が共通課題の福祉事業所にあつて実行委員に送り出していた

り活動を支えたみなさんにも感謝です。

全国の事業所 による物品販売 の様子





「ロックソーラン」
お祭り気分で盛り上がった



夕食交流会
「つながろまい なかまの輪」

誰もが大切にされる社会づくりの発展にむけて

今大会の大きな成果として、たくさんの方の学びとつながりが生まれました。

いま国は「全世代型社会保障制度改革」と銘打って医療・介護・

年金・労働各分野の一体改革を進めています。その中身は「給付の抑制と負担増」を基本としたもので、私たちが目指す「権利としての福祉」とは相容れません。また市民の声なき憲法「改正」議論のなかで社会保障・社会福祉の大前提である平和が揺らいでいます。今大会で生まれたつながりをさらに広げ強いものにして、日本国憲法と「他の者との平等」を謳った障害者権利条約を守り活かす運動を地域で広げていきたいと思えます。誰もが大切にされる社会づくりの発展に向けて、今大会は大きな経験、きっかけとなりました。

家族で参加して

めいほく友の家 加藤尚子さん

多くの仲間たちとボランティアの皆さんとの大合唱団。手話を交え楽しく歌い、会場の皆さんに私たちの願いが届いたでしょう。参加できて最高でした。みんな生き生きしていて素敵でした。

「ありがとう」





くらしの場をつくる会の様子

みんなの思いがいっぱいつまった、「めいほく町北ホーム」(仮称、以下、町北GH。定員18名と短期入所2名：守山区町北)の建設が進んでいます。この事業の準備に2年かけてきました。たくさんの方たちの協力と支えがあって実現できている事業です。

少子高齢化の社会が進む中で、障害のある仲間や家族の高齢化、障害の重度化も進んできています。高齢のご家族が、高齢の障害のある方への介護をしているケースも少なくありません。障害のある方の「くらしの場」が圧倒的に不足しており、地域の中で、その整備が求められています。

名北福祉会でも、「親亡き後」の心配、「親が元気なうちにくらしの場を」というのが、ご家族の思いです。そんな家族の思いを形にしていこうと、「くらしの場をつくる会」での話し合いも30回以上を重ねてきています。職員も事業所を超えて、「親亡き後」や町北GHについて、一緒に学習する中で共通認識をつくってきました。

障がいがある方のグループホームが 名古屋市守山区町北に 4月オープン

土地が見つからない、お金がない、人手不足などの困難もありながら、この町北GHもついに4月オープンにまで、みんなの力で実現できました。そして、今回は「地域生活支援拠点事業」も行います。家族が介護できなくなってしまう等の際に利用していたく、緊急の空床型短期入所(お助けショート)、体験型グループホーム(お試しホーム)も行います。地域の障害のある方とその家族の皆さんの力になれるよう、努めていきます。

障害者権利条約では、「障害のある方が、誰とどこで住むのか、自分で決める権利がある」とされています。しかし、地域の条件整備は、あまりにも遅れており、そうした当事者の豊かな選択ができないのが現状です。今回の町北GHも、ニーズにまったく

足りておらず、もう次のホームを期待する声も出ているほどです。この現実を社会に発信しつつ、困ったことをみんなで持ち寄り、行政にも訴え、形にしていく。そんな「めいほく」らしい事業にしたいと考えています。



建設工事もすすんでいます

21・老福連（21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会）が主催する職員研究交流集会が、11月30日～12月2日の3日間金沢で開催されました。今回は、『介護保険20年・福祉のこころ～人がひととして生きるために～』というテーマで、私は1日目の全体会と2日目の分科会の2日間参加しました。

分科会は、他の事業所がどのような取り組みを行ってきたのかを聞きたいという思いで4年連続参加しています。20グループに分けた分科会私のグループは6演題ありました。

「孫と近くのパン屋へクリームパンを買いに行きたい」と自主性を引き出せた事例や利用者さんが個々でやりたいこと（刺し子・塗り絵など）を大切にしたり、サークル活動の取り組みなどを聞くことができました。私

21・老福連

第19回職員研究交流集会に参加して デイサービス東町 櫻井 英人



は、デイサービス東町の職員が困難事例に対し、一丸となつて取り組んできたことをみんなの前で発表しました。他者に対して攻撃的な言動がみられる利用者さんへの対応について様々な視点からの助言を頂いたので、今後の参考にしていきたいと思っています。

実践事例を持ち寄り、共有し、討議できる貴重な集会だと感じます。次回も、発表者としても参加をしていきたいです。

「特養ホーム施設整備」選考結果は不採択

名北福祉会の評価はよかったようでしたが、選定された法人は、特養を運営している実績や医療面での強みがあったようで名北福祉会は、不採択となりました。

みなみ町福祉総合センターづくりの今後について (特養・小規模多機能・交流センター)

今回の不採択は残念です。特養の開所を待ち望む関係者、地域の方たちに応えることができませんでした。北区は、高齢者率もトップクラス。上飯田のなかには65歳以上の独居の方が半数以上を占めるという集合住宅もあります。引き続き地域のなかで高齢者の方の安心した暮らしができるように必要な事業をすすめていきます。

今回応募した事業計画（資金計画、図面等）の内容に基づきすすめていくことと入所者の方の重度化への対応に必要な医療との連携がもてるようにしていきます。

つぎの公募は早くも2021年度（開所2023年4月）予定です。

再び応募し、採択されるように頑張りたいと思います。



中森祐香

ヘルパーステーションそらに勤めて8カ月が経とうとしています。

大学時代は、地域福祉や、障害福祉に特に関心をもつて学んできており、現在、それを仕事として実践できていることにとても充実感を感じています。

支援中、うまくいかず、仲間が予想外の行動や、感情をぶつけてきたとき、戸惑い、焦ることもありますが、帰り道に、その場面を振り返り、次回はなるべくお互い気持ちよく支援が終わるように、声掛けや、間の取り方など工夫しています。1対1のかかわりが多い分、仲間と自分以外のヘルパーさんとの関りを見る機会は少ないですが、記録を見たり、先輩・ご家族の人からのお話を聞いたりする中で、こんな一面もあるんだ、こんなものに興味を示すんだ、自分も次の支援で実践してみよう、と取り入れるようにしています。それだけではなく、予想



外の行動も、感情をぶつけてきた時も、新たな発見、新しい一面として捉え、また一つ新しい自分を表現してくれたんだなと思うと、それが私のやりがいにも繋がります。これからも、仲間たちが私に、新たな一面を見せてくれる瞬間が来るのがとても楽しみです。名北にかかわる仲間たちが地域で自分らしく暮らし続けられるように支援してきたと思います。



正職
1年目

ヘルパーステーションそらで頑張っています

篠原裕登

ヘルパーステーションそらでは主になかまの送り迎え、休日一緒に出かけたりと地域での暮らしを支えています。一対一の関わりが多く、支援の時間が短い中で、私は支援に入った方との関わりを大事にしています。なぜならコミュニケーション、表情や動作を意識して短い支援でもこの方はどう思っているのか、今の気分はどうなのかを自分なりにくみ取ること支援の幅が広がりより良い支援ができると思うからです。

実際にKさんの支援の時の事です。初めて休日にリニア鉄道館に行きました。Kさんとの

が好きという事は知っていましたが、本当に楽しんでいるのだろうか、私だけが楽しんでいるのでは、と思う部分がとてもありました。しかし、電車のジョラマのイベントを見た時、とても目を広げてキョロキョロと見ていました。ために私は反対の言葉で違う所も見に行こうかというところにいる」と言っている時間いっぱいまで見ました。ちよつとした一言でも想いはとても伝わってきました。このことから短い時間でも関わりを深くしていきたい事思っている事を引き出していきけるような人になっていきたいです。

コミュニケーションでは同じ事を繰り返す事が多かった事もあり、楽しいですかと言つと「楽しいー。」と言つてくださる事が多かったです。Kさんは元々電車



めいほく保育園
子育て支援センター



越口雅美さん
勤務して13年になります。

越口雅美さん

子育て支援センターに遊びに来てくださる親子は、年齢、性別、性格、また親の方の考え方、子どもに対する思いも様々です。

そのため、接する時には、相手の方に合わせた接し方に心掛けています。

親子で、また遊びに来たいと思える雰囲気や、楽しく雑談しながら相談出来る場所であることを目指しています。



「支援センターに仲間入りさせていただいて、はや10年が過ぎようとしています。」

原 多恵子さん

今年はどうな親子さんと出逢えるのでしょうか。ワクワクでいっぱいです。



篠宮富士子さん
勤務して14年になります。

篠宮富士子さん

新しい出会いを楽しみにして仕事をさせていただいています。子ども同士のやり取りに、癒やされる毎日です。

長い間
福祉会を支えて
くれているパートの
皆さんありがとう
Part 2



畔柳隆子さん
働きはじめ13年がたちました。「のびのび子育てサポート」は、会員登録から始まります。でも、この登録ができない例が数件ありました。お母さんが支部まで来る事ができないという事です。初めての

畔柳隆子さん

働きはじめ13年がたちました。「のびのび子育てサポート」は、会員登録から始まります。でも、この登録ができない例が数件ありました。お母さんが支部まで来る事ができないという事です。初めての

子育てで夜も寝られない。ふらふらして出かけられない。など、そんなことで異例ではありませんが、家庭訪問をさせてもらうことがありました。とにかく事情を聞いて、入会手続きをして、出来る範囲でサポートを見つけ紹介しました。

できないことは保健所と連絡をとりながら寄り添いました。何年かして、その方たちから、「今は母子共に元気です。」の知らせを聞いてほっとする事がありました。

困ったこともあります。喜んで頂くこともあり、元気をもらいながら今に至っています。微力ながら何かのお役に立てれば幸いと日々思いながら勤務しています。

第二めいほく保育園

市原喜久子さん

働き初めて昨年の10月でちょうど17年です。健康に働き続けるために「早寝早起き。毎日、ヨーグルトとリンゴを摂ること。思ったことを口に出して、ストレスをためないこと。くよくよしないこ

と。」を心掛けています。

保育の中で思い出深いことは、1歳児と散歩に行つて、めいっばい遊んだ時にとても楽しかったことです。趣味は手芸（保育園のおもちゃやタペストリーなど、たくさん作つてくださっています）と盆踊りです。夏はあちこちの会場に行つて踊ります。

長く続けられているのは、子どもたちの笑顔に癒されて元気をもらっているからです。周りの先生の温かい気遣いにもとっても感謝しています。



「障害福祉法の制度拡充を求める」きょうされん署名にご協力ください！

きょうされんは結成以来、障害福祉についての制度拡充を求めるため、この【国会請願署名・募金運動】にとりくんでいます。常に障害のある人たちの立場に立ちながら、制度化を訴えてきたこの署名運動は、今年で43年目となります。障害があっても…「あたりまえに働き えられるくらしを」を実現させるために、署名と募金へのご協力よろしくお願いします。



今年も4月までの署名の取り組みになります。※封筒(切手不要)に入れ、返信お願い致します。

今年も4月までの署名の取り組みになります。※封筒(切手不要)に入れ、返信お願い致します。

請願項目

1. 「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」は、国の謝罪を明記し、支給額を見直すなど、被害者の人権回復にふさわしい法律としてください。
2. 障害年金を安心して生活できる水準まで引き上げるとともに、グループホームやヘルパー制度など希望する暮らしを支える制度を拡充してください。
3. 「2021年度の報酬改定」では、必要な職員を確保して十分な支援ができるよう、基本報酬を引き上げてください。
4. 障害のある人が65歳を超えても必要とする支援を自ら選んで利用できるよう、介護保険優先原則を廃止してください。
5. 地域活動支援センターが安定して運営できるよう、国の責任で実態を調査し、制度を拡充してください。

保育の
署名にご協力、
ありがとう
ございました

保育の署名を返送いただきありがとうございました。

近況報告を頂いたり、カンパも送って頂いたり大変感謝しています。

10月から「幼児教育・保育の無償化」がスタートしたものの、公定価格の見直しで減額が提案されるなど、保育予算の改善・増額にはつながっていません。署名を力に、引き続き保育制度の充実・改善と保育予算の増額を求めていきたいと思っています。

「わいわい子ども食堂」のご案内

毎月第1水曜日、17:00から19:00、
北医療生協すまいるハートビル2階
ワイワイルームで行っています。

参加対象は幼児から高校生
(付添いの大人の方歓迎)、

参加費は子ども0円・おとな300円です。
問い合わせ先：北医療生協(水野さん)
電話：052-914-4554

名北福祉会を支える会の会員募集

夢のある豊かなまちを共に作りましょう!!

「平和で豊かな住みよい街づくりをすすめ、福祉の充実をめざします」に賛同する人たちの力で、法人が進めている事業や「みんなの夢」をかなえるための施設づくりを応援しています。詳細は本部までお問合せ下さい。

ヘルパーさん募集 (ヘルパー2級・介護福祉士)

障がいを持つ人やお年寄りの生活を支える、やりがいのある仕事です。詳細はお問い合わせください。

時給 1,000円～1,750円 ※仕事の内容や時間帯によって異なります。

交通費 850円/日(上限)

問合せ先 ヘルパーステーションそら

電話 052-910-0712 (担当) 岩橋・坂野

お助けクラブにご協力ください

手伝って欲しい方、手伝いしてもいいよという方、共に会員登録し助け合っています。

詳細は福祉会本部にお問い合わせください。

☆住所変更や送付不備がございましたらお手数ですがご連絡下さい。